

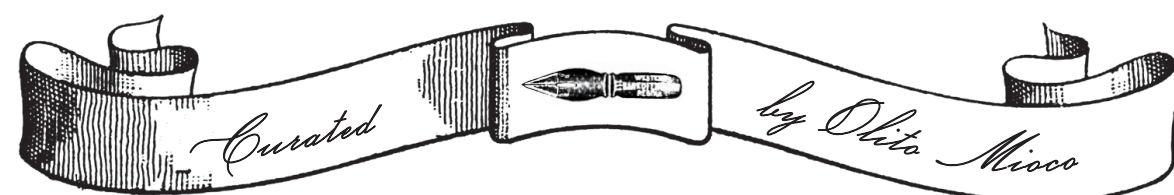
Salon des Indépendants

塵す三千世界の烏達	残った二羽が俺たちであれ	牟燈灰	ラブコメのつもりでいるの？ホラーだねシーン二十五「こいの接触」	別木れすり
遠くにいるきみの写れる人物写真風ざわたる海の表面をなぞる		黒塚多聞	ドアノブの亜種と思えばたいていの嫌なやつとも握手ができる	村田真央
「わたしって阿修羅なのかも？」様々なハンドクリーム貰って悟る		鮎田わさび	くちつけた場所から傷むそののちは自重加速をする桃となる	はるかぜ
曖昧なふたりに似合うあみだくじ雲形定規使って書くね		うとか	悠揚たる鳶の螺旋 対岸に逢ふべきひとの影あらざりき	碧乃そら
地球って3つあるってわかったその瞬間にみんな消えたの		かいこつ	剥の字を「剥」にしたとき現れた小窓に揺れるアカシアの花	亀田巧
運命のひかりじゃなくても今だけはベイビーアイラブユーのブルース		夜空	屋上を飛び立っていく声のみの鳥の姿を描いたカンパス	宇祖田都子
月曜に逆らってみるキオスクで缶ビール二本目指すは海		笛の音	♡♡ 全員が勝てるルールはつまらないだけ	村川愉季
青空と黄金の大地によみがへる揺るがぬ意ひと夢の翼よ		虎松秀樹	カリフラワーは花束ですか？そんなこと知りませんよと応える辞令	きいろい
すれ違う君と私は衛星で見てもみことな青と橙		太田葵	夕方のニュースにもやしの根をむしる 貴賤はないと言える幸運	青野朔
親は子を選ぶブーブー自らの足で地を踏み道選ぶまで		非常口ドット	紫陽花とスワロフスキー自転車がバンクした日の雨のきらめき	沙々キハム
終末処理場とこの世の果てのこと「海」って呼ぼう 海が見えるよ		菜花アオ	エメラルド国破れても山河在りわだつみ想うすがのネイル	周雨京
優しさを滲ませながら去っていく去勢後のくまモンのドナドナ		インアン	素顔のわたしをいつでも見たいって嬉しいんだけどなんか複雑	神洲橘
夏季巡回会場を埋める国民がその10分は海原だった		natsuko	本編もよかった時の予告編 泣いたことだけ覚えてる夢	亜麻布みゆ
豚ばらは豚をばらしたやつだって仮説立ててる間に夏た		汐留ライス	私よりあの子が食べる焼肉の方が幸せそうな肉生	佐藤恵
飛ぶための羽ではないと言ったときのエミューは最も恐竜に近い		榎原もか	渡る鳥流れる雲の斜影濃くコンテンポラリーダンスは続く	川瀬十萌子
焰焰と燃え上がりしたましひ動く白詰草はわたくしだけの少女		古井朔	箱入りの娘のように花手水くずれる前に攫ってほしい	北野白熊
瞼から落ちる雫を音にしてピアノニッシモで君を抱く夜		Noctiluca	あけまして祝日法の改正で井夜明けはまだか トレンドになる	押田絵風
顔を見ずいつてらっしゃいも言えずに出掛けた母が帰らない午後		椎崎麗	いはいなあ あのさ確認するときは自分の頬をつねるもんだよ	川村サ行
水あそび宇宙ができたあの頃の重さを知らない粒子のような		modern	さようならまた来るからね約束しそれが最後と思わないまま	草流
私の願いを君は笑って断るそれでも私どうしても君の腎臓になりたい		フラ子	文字だけの世界で遊べ望むなら神、君、蚤とよりどりみどり	りのん
いや僕は文系ですと言いながら杜学のカフェで羽化の定義を	とんだ一杯食わせ者		グラウンド遠巻きにする背に落ちた影も青だと気づけなかった	やすらか
ドキドキがおさまらなくて152個の素数を数えたものの	北乃銀猫		いちじゅうひやくせんまん値打ちはないですが よいものでないじにしてねしみず	
裏切りの真相は知らないブルータス 誓いの接吻の証人にした	青海波		メニュー見て三十秒で「オムライス！」いつもハモるねおいしい顔で	梅ふぶむ
「泡風呂で体洗って待ってるわ」クリームソーダのチェリーつぶやく	六浦筆の助		遣伝子で作ってしまう青薔薇に染色液の愛しさはない	そば
夜のうち遊べやさしいおばけたちいじめっ子らは寝てるのだから	宇井モナミ		背の傷を掻き壊すことはできても自分で薬を塗れない僕ら	折戸みおこ
ジャイアンが内角えぐりこむようにジャイ子は紙にペン入れをする	小久保柚香			
呪いより強い気持ちで咲いている私は君のアガパンサスよ	8個			
音痴でも続けたらいい亡霊は怒りと歌に弱いんだから	酒部朝日			

Salon des Indépendants

tanka netprint

Salon des Indépendants



落選短歌を集めたネプリ、つくりました。

時代は19世紀後半のフランス。セザンヌ、ゴーギャン、スーラ、シニャック.....今となっては教科書に載っている画家たちですが、彼らの作品は当時の画壇の権威に認められず、官展では落ちてばかり。そんな彼らが作品発表の場としたのがサロン・ド・アンデパンダン（アンデパンダン展）です。事実上の落選作品展であったこの展覧会は、当時の保守的な風潮を覆す革命の場となります。

俺が良いと思ったものは良い！短歌だってそうじゃない？地方賞に新聞短歌、NHK短歌、SNS企画。公募は数多あれど、そこに掲載された作品だけが優れているとは限りません。公募に出したけれど入選しなかった短歌をX（旧Twitter）で募り、掲載しました。ぜひ、お楽しみください。

主催 折戸みおこ

Salon des Indépendants

Curated by Olito Mioco

発行

2025年11月16日

企画・編集 折戸みおこ

X@_the_goldfish_

デザイン 仙田てん

X@TEN_57577